

懐かしくて新しい「紙芝居のさと」づくりⅢ

取組に至る背景・事業の目的

紙芝居の盛んな須坂市にありながら、須坂市立博物館に収蔵されている昭和の貴重な紙芝居のことは知られていなかった。当市出身の街頭紙芝居最後の絵元・塩崎源一郎が寄贈したそれらの紙芝居を複製し、市民が日常的に「使える文化財」にすることで、郷土の先人・塩崎の偉業を伝え、ふるさとの特色ある芸術活動として定着させていく。

事業内容

「紙芝居のさと」信州須坂を誇りに思う市民を育てていくため、須坂市出身の街頭紙芝居最後の絵元である塩崎源一郎の作品レプリカ（増刷分 500 枚）を市民と共同で作成し、街頭紙芝居自転車を使用して様々な場所で上演、育成したシニアの演じ手の活躍の場を多く創出し、文化の伝承や生きがいがづくりも担う。他に、市民講座の開催、関連する講演会や信州須坂紙芝居のさとまつりを開催する事業。



【大学生と連携した紙芝居復元】

事業効果

- 平成29年度から、3年の歳月をかけ、須坂市立博物館の協力と三邑会の監修のもと、昭和の貴重な紙芝居700枚を複製。これまでに完成させたレプリカを塩崎の弟子と市民が、130名の市民の前で披露した。
- 複製された紙芝居を観ることで塩崎源一郎の存在を知った市民が、紙芝居の盛んな郷土との不思議な縁を感じ、ふるさととは切っても切れないたいせつな文化だと気づきを得ることが出来た。
- レプリカ作成を機に長野県内で活動する紙芝居団体・個人や市民が集まり、ネットワークができた。塩崎の弟子の街頭紙芝居師もたびたび出演するなど、「須坂に行くと紙芝居が見られる」等、須坂が「紙芝居のさと」であることが定着し、集客につながるようになった。
- 紙芝居を使って地域で活動したい初心者（特に男性シニア）向けに、「信州須坂とことん紙芝居塾」を開講。実技講習に加えて、地域デビューまでをとことんサポートした。
- 小・中学校の「信州型コミュニティスクール」や、高等学校の「信州学」などに紙芝居を取り入れるところが増え、世代を超えた交流が盛んに行われるようになった。

工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

- 今後も、紙芝居文化を醸成し演じ手を育成する事業、特に世代を超えた交流に積極的に取り組んでいく。特に、今の時代のコンテンツに長けた大学生の知恵を借り、シニア世代には持ち合わせない新たな発想と技術で、完成させたレプリカを、広く発信し、信州須坂の文化芸術として長く残していきたい。
- 須坂市社会福祉協議会や長野県長寿社会開発センター等と連携し、シニア世代の活躍や、介護福祉施設への派遣を行えるようシステムを構築していく。ひきつづき昭和の貴重な紙芝居の複製と普及に努め、紙芝居をツールに、明るくあたたかいまちをつくらしていきたい。

【評価のポイント】

「紙芝居」という地域資源を見出し、レプリカの制作と実演を通じてシニアと学生など多世代に渡る交流が生まれるなど、地域文化の維持発展や継承等の機運醸成が図られた。

団体名	信州須坂紙芝居のさとプロジェクト（須坂市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	026（245）0784 市立須坂図書館	事業費	2,921,480円
		支援金額	2,337,000円